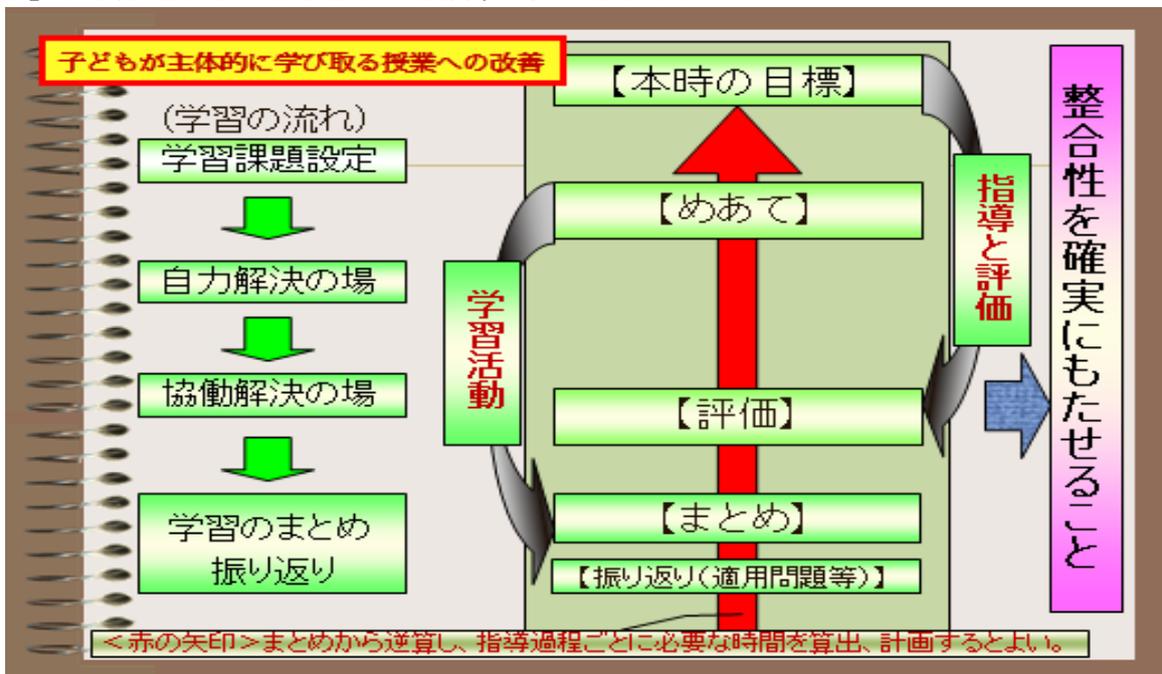


# 「本時の学習過程」の工夫や授業研究会における「自評」の在り方について

熊本県阿蘇教育事務所

## 1 「本時の学習過程」の工夫

学校訪問や諸研究発表会で授業を参観させていただくと、全てではないにしろ、「まとめ」や「振り返り」が十分ではないと感じられる授業が多くあります。



多くの授業は通常、1時間の流れとして「本時の目標」、「めあて」、「評価」、「まとめ」、「振り返り」の順で流れますが、授業の終末部でどんなまとめをするのかという視点からとらえて授業構成を立案していくという考え方もあります。

時間が不足し、協働解決の場やまとめの時間等が十分に確保できないということをなくすためには、図中の下から上に伸びる赤の矢印のように逆算し、指導過程ごとに必要な時間を算出し、学習内容を精選するという視点が必要です。

その際、特に大切にしなければならないのは、「本時の目標」と「評価」及び「めあて」と「まとめ」の関係を常に意識して、整合性を確実にもたせるということです。「めあて」を立てるときには、必ず「本時の目標」につながるようにすることも不可欠です。

## 2 授業研究会における「自評」の在り方

授業研究会では通常、授業者が自評（自己評価）を述べます。この自評についても、何が言いたいかかわからない、少し的はずれの自評もあります。「自評」は自己分析です。客観的に評価し、その改善策について考えを巡らせていく能力が育たないと授業力向上の効果も薄くなります。授業者はその時間については「本時の目標」の達成に向けて授業に取り組むわけですので、当然、自評では、次の4つの点を確実に述べるべきです。必要なことを言い漏らすことなく、5分程度でまとまりのある自評ができます。

### (1) 本時の目標の達成度

(例) 本日の授業は、「・・・」を目標にした授業でしたが、その達成度は〇〇%ほどです。

### (2) 達成度をそう判断した根拠

(例) そう判断した根拠は、机間指導中にノートを点検した結果、○人中△人が評価基準Bを満たしていたからです。また、・・・

### (3) 達成できなかった部分が出てきた理由

(例) 達成できなかった理由は、児童（生徒）観の捉え方が甘く、簡単に終わると考えていた◇◇に時間がかかり、肝心の□□がうまくできなかったからです。また、・・・

### (4) 今後、同様の目標の授業をするときの授業者としての改善策

(例) 授業前の児童（生徒）観を客観的に捉えるとともに、◇◇についてはVTRの利用で簡潔に押さえ、その分、目標に迫るための□□については班別の協働解決の場にまとまった時間を充てることができるようにします。また、・・・